

## 2024 年度 総合型選抜試験(B 日程) 法学部 法律学科 「出題の意図」

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
6	5

### 2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力(リーガル・マインド)を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

- ① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
- ② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
- ③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント(人間性、活動実績、将来への夢・希望など)が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

### 3. 出題の意図

本問のテーマは、いわゆる死後懐胎子についてである。

死後懐胎子とは、夫の生前に精子を冷凍保存しておき、夫の死後に、妻が保存精子を用いて人工生殖によって懐胎(妊娠)して生まれた子のことである。家族関係についてのルールを定めている民法は、このようなケースを想定していないため、死後懐胎子が法律上どのような立場になるかについては、明確なルールがない。

近時、夫の死後に、妻が医師に夫の死亡を告げずに第三者の提供精子を用いて懐胎したというケースがニュースで報道され、注目を集めた。

本問は、死後懐胎子をめぐる議論について、日頃のニュース等を通じて把握しているかを問うとともに、それを踏まえたとえで、自分の意見を述べることができるかを問うことを意図している。

#### 4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

死後懐胎子について、まず、民法上の問題を把握しておくべきである。

すなわち、民法 772 条 1 項は「妻が婚姻中に懐胎した子は、夫の子と推定する」と規定しているが、夫の死亡により婚姻関係は解消されるので、死後懐胎子はこれによる推定を受けない。また、同条 2 項は「婚姻の解消若しくは取消しの日から三百日以内に生まれた子は、婚姻中に懐胎したものと推定する」と規定しているが、夫の死後に懐胎した子が、夫の死後 300 日以内に生まれることは通常ないので、死後懐胎子はこれによる推定も受けない。

したがって、死後懐胎子は、そのままでは父との間に法律上の親子関係がないということになる。このような場合に、法律上の親子関係を形成するためには、認知がなければならない。

民法 787 条は「子、その直系卑属又はこれらの者の法定代理人は、認知の訴えを提起することができる。ただし、父又は母の死亡の日から三年を経過したときは、この限りでない」と規定しており、父の死後であっても、3 年以内であれば、検察官に対して認知の訴えを提起することができる（いわゆる死後認知）。

死後懐胎子による死後認知の訴えが認められれば、死亡した父との間に法律上の親子関係が成立し、父の親族との間にも法律上の親族関係が認められる。その効果として、父自身の相続人になることはできないが（父が死亡した時点で懐胎していなかったため）、父の父母などが死亡した場合に、父に代わって代襲相続人になることができるなど、法律上の親族としての立場が認められる。

これについて、リーディングケースである最高裁第二小法廷平成 18 年 9 月 4 日判決・民集 60 卷 7 号 2563 頁は、現行の民法においては、死亡した父と死後懐胎子に法律上の親子関係が生じる余地はないとして、訴えを斥けた。

すなわち、仮にこれを認めるとすれば、新たな立法によらなければならないということである。

以上のような状況を踏まえたうえで、死後懐胎子についてどのような法律上の地位を認めるべきかについて、自分の意見を述べてもらいたい。

この問題は、必ずしも論理性と合理性のみによって解決できるものではなく、生命倫理や国民感情といった要素も考慮しなければならないものである。社会における合意形成のために、どのような政策を行うべきかということについても触れられれば望ましい。

## 2024 年度 総合型選抜試験(B 日程) 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
3	2

### 2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

### 3. 出題の意図

今回の問題は、地域行政学科のアドミッション・ポリシーの 2 「地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること」に基づき出題しています。

自分の地元の市町村という身近な地域社会の「市町村長の選挙での投票」の場面を想定し、地元の課題も踏まえて、投票したいと思える立候補者の「政策」を 3 つあげてその内容を説明してもらうことで、地元の市町村の現状や出来事に興味・関心を持ち、どのような問題・課題を抱えているのかを把握しているかどうか、さらにはその問題・課題の改善や解決のためには

何が必要かを考えることができるのかを見ています。

そして、3つの政策について、問題で設定された「投票する側」の立場から、論理的に文章として表現できるかどうかを見えています。

#### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価にあたっては、問題で設定している、投票したいと思う立候補者の政策を3つあげていること、その内容を(問題・課題の発見から、改善・解決するための策の提案まで)できるだけ具体的に説明していること、投票する側の立場からの記述となっていること、さらには地名をはじめ正確な言葉を用いて、論理展開に無理がなく文章表現ができていていることを見えています。

日頃から、地元の市町村や沖縄はもちろん、国内外で起きている出来事には興味・関心を持ち、本や新聞(沖縄であれば地方紙、県や地元の市町村が作成する広報誌等)、テレビやインターネット等媒体は問いませんので、ニュースに触れる習慣をつけると良いかと思います。

## 2024 年度 総合型選抜試験(B 日程) 経済学部 経済学科 「出題の意図」

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	6

### 2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

### 3. 出題の意図

経済学科では、経済を含む地域(特に沖縄県)および国際社会の諸問題に強い関心を持ち、これら諸問題の解決策を論理的に考察し、問題解決のために主体的に行動できる人物を求めている。沖縄経済は観光資源を活かして飛躍的な成長を遂げてきた一方で、コロナ禍において観光産業を中心とした外需主導経済の脆さが露呈したことは記憶に新しい。また、新聞やテレビではオーバーツーリズムの問題が度々報道されてきた。今回の出題は、普段からこうしたことに対して強い関心を払っているのかどうか、また現状や問題点を客観的かつ正確に把握した上で自分なりの意見を提示できているかどうかを問う内容となっている。

### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

採点では、沖縄県における観光産業の負の側面に対する現状認識(自分の体験や身近な出来事だけではなく客観的な事実やデータに基づいて述べられているかどうか)や論理性の高さ(論点を整理した上で自らの意見を提示できているかどうか)を評価した。当然のことながら、問題の意図をしっかりと捉えているか、文章全体の構成が整っているか、文章において何がもっとも言いたいことなのかを明確に提示されているか、日本語の文章として表現・表記が適切であるかといったことも重要な評価ポイントである。

## 2024 年度 総合型選抜試験(B 日程) 経済学部 地域環境政策学科

### 「出題の意図」

#### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
8	8

#### 2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。

そこで、本学科では、次の 1~4 について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

#### 3. 出題の意図

社会に関心を持っているか、沖縄に関心を持っているか、環境問題に関心を持っているか、時事問題に関心を持っているか、地域政策に関心を持っているか、経済と環境と社会など複合的な情報分析と解析ができるか、情報を正しく入手・把握しているか、得ている情報を整理して output(表現)できるか、を総合的に問うテーマとして小論文テーマを設定した。

PFAS 問題は、環境と経済、社会と政策を考える重要なテーマである。沖縄県は水道水の 2000 倍の価格のペットボトル水消費額が全国一である。安心安全な水の確保が、米軍基地によって侵害され、経済・財政負担を余儀なくされている。汚染河川からの取水など断水危機の中でも注目されるテーマであり、地域環境政策学科のポリシーに沿ったものである。

#### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

- 1: PFAS とは=人体への影響、米国での汚染、沖縄での汚染状況(20 点)

- 2:米軍基地と PFAS 汚染の関連=泡消火剤問題、消火訓練、地下水汚染等(20 点)
- 3:PFAS 汚染除去、汚染防止対策=地下水源・水道水源汚染除去策、財政負担等(20 点)
- 4:日米地位協定問題=汚染源の特定、汚染対策、政府の対応など(20 点)
- 5:浄水、安全な水確保のための金銭的負担、水資源管理の諸問題への独自視点(20 点)
- 6:字数 1000 字以下は減点(100 字不足で 10 点減点を目安)

## 2024 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 産業情報学部 企業システム学科

### 「出題の意図」

#### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
13	7

#### 2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の 3 分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の 5 項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え、意見を持っている人物を求めます。

#### 3. 出題の意図

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指している。この小論文の出題の意図は、そうした人材の育成を目指す本学科での学修にあたり、必要な能力を、受験生がどの程度持っているかみることにある。今回は、現代社会における個々の多様性（たとえば性自認、国籍、価値観など）と、そうした多様性に対する社会の現状、そして企業の課題について問うた。この問いを通じて、現代におけるビジネスの



変容を、公民科で学んだ内容も踏まえてどれだけ理解しているのか、そして課題解決に向けて、どこまで深く思考できるのかをみようとした。

#### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

この小論文では、まず、基礎的な教養がどの程度あるかをみている。ここでいう教養とは、国語の学力に加え、社会一般に対する普段からの関心の広さと深さを表す。次に、論点を整理して、論理的に表現できているかをみている。最後に、社会の問題を他人事としてではなく自分のこととして主体的にとらえ、解決しようとする意欲が伺えるかをみている。

## 2024 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
10	7

### 2. 産業情報学科 アドミSSION・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

### 3. 出題の意図

出題の意図は下記である。

- 産業情報学部産業情報学科のアドミッション・ポリシーを理解しているか。特に『「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物』及び『産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力（中略）を身につけている』を理解しているか。
- 身近なニュースを通して、情報・経済について考えているか。特に、今回の試験問題のテーマである為替のニュースを読んだり聞いたりして、その影響を考えているか。
- 他人にわかりやすく説明できるか、またわかりやすい文章を作成することができるか。論理的に物事を説明することができるか。

### 4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし

## 2024 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
5	5

### 2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

### 3. 出題の意図

総合型選抜(B 日程)において、日本文化学科ではアドミッション・ポリシーに基づき、思考力・判断力・表現力等を測るための論述式の試験問題を出題しています。論述のテーマは、「日本文化」「琉球文化」「多文化間コミュニケーション」の3つの専門領域に関わるものです。

今回は上記2の日本文化学科の求める志願者の中でも、特に「1.グローバル時代に求められる多様なコミュニケーション」、「3.地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を見取るため、人間の共感力に関する著書から出題しました。

問題文では、共感力について「人間の共感力の特徴」、「GIGA スクールの問題点」を述べたうえで、「パラドックスの指摘」がなされています。筆者の主張や論理展開を正しく読み取り、パラドックスの指摘を自身の問題としてとらえ解決策を論述することで、基礎的読解力とグローバルな視点での思考力・判断力を見取る意図があります。

### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

問1(要約問題)では、筆者の主張を正しく読み取り、要点が把握できているかを評価しています。今回の出題では、共感力の特徴と、共感力を高めたことで生じた正負の結果を押さえているかがポイントになります。キーワードを探し、筆者の論理展開に即して、過不足なくまとめる力が求められます。

問2(論述問題)では、課題の意図を的確にとらえることが重要です。今回の出題では、問題文の「ネガティブな結果」が何を指しているのか理解し、その上で本文の内容に基づいて自分の考えを書くことになります。改善策を考える上では、個人としてできること、社会全体で求められていることなど、ミクロ・マクロ様々な方向から迫ることが可能です。

論述の際は、文章構成と論理性(文章の説得力)を意識してください。意見の論拠や、適切で具体的なエピソードを示し説得力を持たせるとよいでしょう。自分の考えを相手に伝えるためにも、一定の字数は必要です。最大字数の9割以上を目指すとよいでしょう。

2024 年度 総合型選抜試験(B 日程) 総合文化学部 英米言語文化学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	6

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、フィリピンのバンブーダンスについて述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2024 年度 総合型選抜試験 (B 日程) 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
2	2

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- I. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
- II. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- III. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か

### 3. 出題の意図

本問は、上記アドミッション・ポリシーの評価指標のうち、主として「1.社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か」、「3.国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、「5.社会福祉を科学的に学ぶための基礎的学力を有する人物か」を問うことを意図しています。

本問の主旨は、沖縄における非行の現状を正しくふまえたうえで、再非行、再犯防止のためにどのような支援や政策が必要か、について考察することにあります。近年の全国的な少年非行の減少とともに少年院に収容される非行少年の人員もこの10年で60%近く減少しています(令和5年版 犯罪白書 第3編 3-2-4-1 図 [https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/70/nfm/n70\\_2\\_3\\_2\\_4\\_2.html#h3-2-4-1](https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/70/nfm/n70_2_3_2_4_2.html#h3-2-4-1))。その一方でマスコミを含めて社会の人々社会的関心も非常に高く、厳罰を望む声が多いと言えるでしょう。

本問は、このような少年非行の問題について、日頃のニュースを通じて把握しているかを問うとともに、公的機関の統計を理解し、社会福祉の視点から、自分の意見を述べることができるかどうかを問うことを意図しています。

### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

#### (1) 評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の4点が評価のポイントとなっています。

1. 沖縄県における少年非行、更生保護の問題について、どれくらいの知識や関心を持っているか、そしてその問題を社会福祉の視点からみることができるか
2. 公的機関の統計情報について理解することができるか。
3. マスメディアの情報を、客観的かつ主体的に評価し、批判的に理解することができるか。
4. 自分の知っていること、自分の経験したこと、自分の考え、自分ができることを関連付けて、自分の意見として論述する能力があるか。

#### (2) アドバイス

今日の日本の少子高齢化社会においては、高齢者の犯罪、そして受刑者は増加し、反対に少年非行の認知件数は減少する傾向があります。それゆえ、刑務所は「社会を映す鏡である」と言われます。そしてそのような刑務所や少年院に収容されている人々には、どのような人々なのでしょう。

将来、福祉専門職を目指す受験生として、マスメディアや公的機関の情報と向き合い、いかなる社会福祉の支援や政策であれば、犯罪や非行を行った人々の更生に資することができるのでしょうか。ぜひ身近な沖縄県の犯罪と非行の問題から社会福祉を考察してみてください。



2024 年度 総合型選抜試験(B 日程) 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻  
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
20	15

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

アドミッション・ポリシーの1つ目に該当するかどうかを判断するための問題となっています。自分の身の周りで起こっている社会問題について関心を持ち、それらの事を自分と結び付け、筋道を立てて、理由と論拠を示して考えを述べているかを見ています。今回は SNS でのコミュニケーションにおいて、ひとはどのような心理状態になるのかを推測し、その心理状態に対処する方法は何かを考え具体例を示し論述できているかを評価します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価のポイントは、①社会で起きていることに関心を向け、客観的な情報や事実をおさえているか、②①を踏まえ、心理状態を推測し、自分なりの考えを導き出し、具体例を示しながら論理的に述べているかという2点です。